

いちほまれ選米



【適正な水管理の実施】

JA福井県

●浅水管理(2~3cm)の徹底で分けつを促進

5月中旬植えのいちほまれをはじめ活着は概ね良好に進んでいます。気象庁より向こう1か月の予報が出ており、期間を通して気温が高く、特に期間の前半はかなり高くなる見込みです。前線や湿った空気の影響を受けやすいため、降水量は平年並みか多くなるでしょう。本県では例年6月上中旬が梅雨入りの目安です。天気は数日で変動するので今後の天気予報を十分に確認しながら適正な水管理を実施しましょう。

1.各地区の取り組み状況について

①栽培状況

いちほまれの栽培実績は各地区において面積が前年より増加しました。日本一のブランド米を目指し、JA福井県全体で取り組んでいきます。

(ha)

年度	R7	R8	前年比
面積	1,887	2,072	+185

②各地区の状況

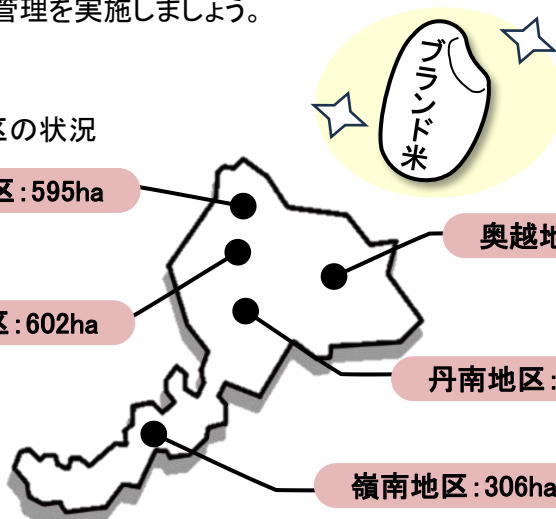
坂井地区:595ha

奥越地区:298ha

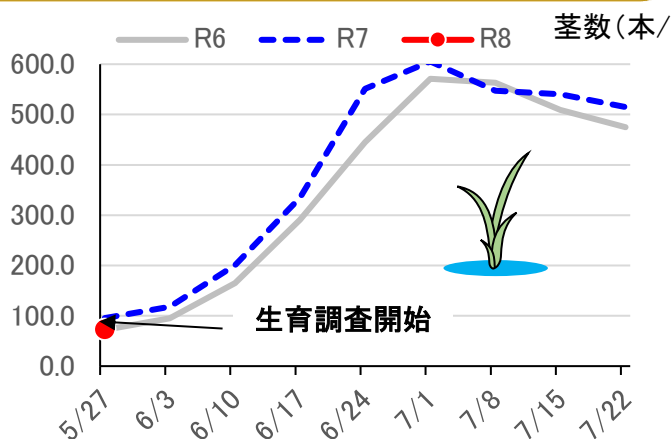
福井地区:602ha

丹南地区:271ha

嶺南地区:306ha



2. 茎数の推移について(5月29日現在)



5月下旬より生育調査が始まりました!!

【いちほまれの生育状況】

順調に活着し、草丈・葉色は平年並みで生育していますが、茎数はやや少ない状況です。今後の気象変動に注意し、細やかな栽培管理を心がけましょう。

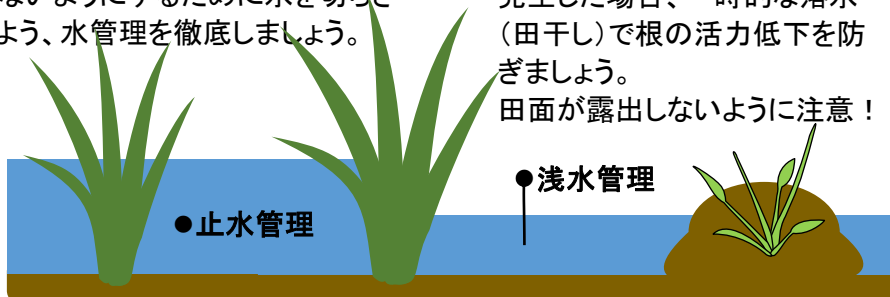


栽培区分	年度	平均移植日	草丈(cm)	茎数(本/㎡)	葉色
移植	R8	5月20日	15.1	73.1	3.3
	R7	5月18日	18.9	95.5	3.1

3. いちほまれ栽培ポイント

①除草剤の効果を最大限活かすため

除草剤散布後5~7日は圃場の田面が出ないようにするために水を切らさないよう、水管理を徹底しましょう。

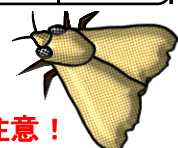


②浅水管理の徹底

浅水管理を徹底し、分けつを促進させましょう。ワキ(ガス)が発生した場合、一時的な落水(田干し)で根の活力低下を防ぎましょう。田面が露出しないように注意!

③ニカメイガの発生に注意!

- 発生量:「越冬世代成虫」の発生は平年より多い。
- 発生最盛期:5月6半旬(5/28以降)に増加。高温の影響により平年よりも早くなる見込みです。
- 防除時期:ニカメイガに登録のある育苗箱施用殺虫剤や種子塗抹処理殺虫剤を施用していない圃場または例年発生が見られる地域または前年発生量の多かった地域では必ず防除する。



ブランド米「いちほまれ」のお問い合わせは、各地区担当営農指導員までお願いします。